

環境経営レポート

活動期間（ 2022年8月～2023年7月 ）



豊國車輛 株式会社

2023年12月22日発行

年 月 日改訂

《 目次 》

1.組織の概要	2P
2.認証・登録の対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	2P
3.実施体制	3P
4.環境経営方針	4P
5.環境経営目標(次年度含む)	5P
6.環境経営目標の実績	6P
7.環境経営計画及び、計画に基づき実施した取組内容	7P ~ 8P
8.環境経営の取り組み結果とその評価、次年度の取組内容	9P ~ 10P
9.環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟などの有無	11P
10.代表者による全体評価と見直し・指示	12P

1. 組織の概要

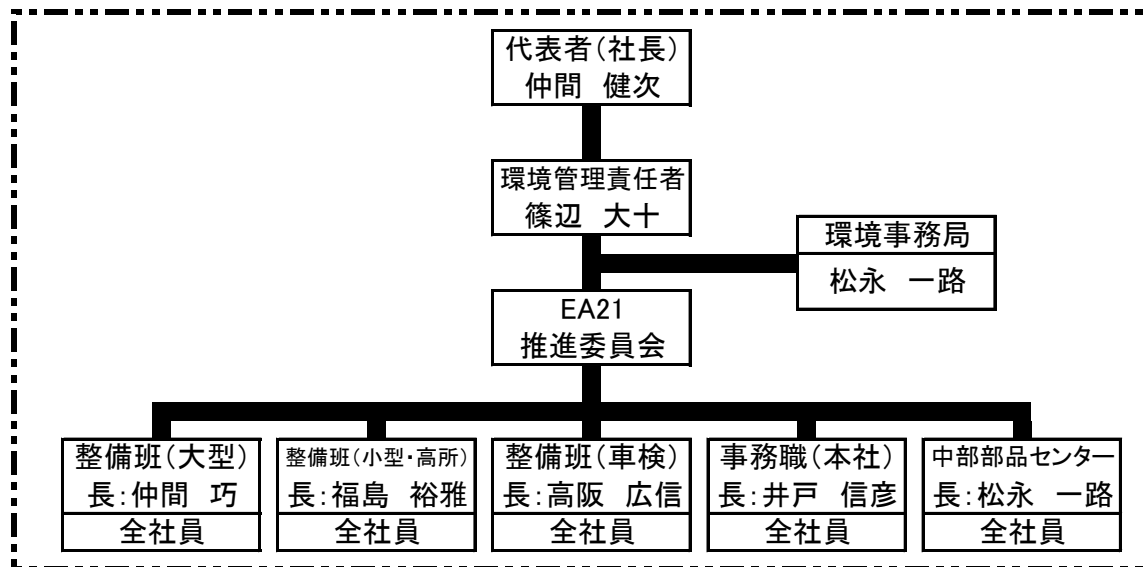
- 1) 代表者 : 代表取締役社長 仲間 健次
- 2) 事業者名 : 豊國車輛 株式会社 (本社・本社工場)
タダノ中部部品センター
北駐車場
西駐車場
- 3) 所在地 : 愛知県名古屋市南区星崎1丁目285番地 (本社・本社工場)
愛知県名古屋市南区南野3丁目216番地 (タダノ中部部品センター)
愛知県名古屋市南区星崎1丁目224番地 (北駐車場)
愛知県名古屋市南区南野3丁目198番地 (西駐車場)
- 4) 会社概要 : 創立年月日 1967年12月21日 (本社)
創立年月日 2011年10月1日 (タダノ中部部品センター)
- 5) 事業規模 : 2022年7月末時点
資本金 15百万円
売上高 1047百万円
従業員数 31名
総床面積 5024.7㎡
- 6) 事業内容 : 建設機械の検査・車検・修理・メンテナンス及び販売
自動車・トラックの車検・整備
部品の倉庫管理及び発送業務
- 7) 環境管理責任者及び担当者の連絡先
: 環境管理責任者 篠辺 大十
: 電話:052-821-1148 FAX:052-822-2771
Email:sasanabe-y@houkoku-s.co.jp
担当者 松永 一路
電話:052-693-9011 FAX:052-693-9022
Email:kazumichi.matsunaga@tadano.com
- 8) 事業年度 : 8月1日～7月31日

2. 認証・登録の対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

- 1) 組織 : 本社・本社工場, タダノ中部部品センター, 北駐車場, 西駐車場
: ※2025年8月、岡崎工場活動開始予定
- 2) 活動 : 上記事業内容と同じ
- 3) レポートの対象期間
: 2022年8月～2023年7月
: 次回は2023年8月～2024年7月を活動期間として2024年10月に作成予定。
- 4) 発行日 : 2023年12月22日
- 5) 改訂日 : ー

3. 実施体制

1. 実施体制図



2. 役割と責任・権限

役割	責任・権限
代表者(社長)	・環境経営の統括責任者 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・経営資源(人員・設備・費用)の準備 ・環境経営方針の策定 ・環境管理責任者を任命 ・実施体制の構築 ・代表者による全体の評価と見直し・指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築・運用・維持 ・環境経営目標・環境経営計画の承認 ・活動の管理状況(実施状況と結果)を代表者へ報告 ・全社員への周知、教育と訓練 ・環境経営レポートの作成責任者
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営のデータ収集と実績まとめ ・環境関連法規等取りまとめと遵守状況のチェック ・環境管理文書・記録の作成と保管 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会 班長 事務職長 中部部品センター 長	・環境経営システムの運用(自部門内・・・以下同じ) ・従業員への環境経営方針の周知 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・教育・訓練実施、記録の作成 ・問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の重要性を自覚し、環境経営計画に基づき実施 ・自分の役割を理解し、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境経営方針

< 基本理念 >

豊國車輛(株)は、建設用クレーン・高所作業車及び輸送用車輛の整備・取扱いの事業活動を通じて感動サービスを提供し住み良い社会の実現に貢献するという経営理念のもと、低炭素社会に向けたヒートアイランド現象・地球温暖化対策など環境保全の啓発を行い、近隣地域社会に根付いた環境活動を全員で取り組んでまいります。

< 基本方針 >

- 1 環境経営の継続的改善を誓約します。
- 2 当社が適用を受ける環境関連法規等を遵守します。
- 3 自社における二酸化炭素排出量削減を推進します。
(電力、ガソリン、軽油、灯油の使用削減による二酸化炭素排出量の低減)
- 4 水使用量の削減を推進します。
- 5 廃棄物の削減・リサイクルを推進します。
- 6 化学物質使用量の削減を推進します。
- 7 グリーン購入を推進します。
- 8 全社員への研修、教育活動を体系的に実施します。
- 9 自社の取り扱う製品の環境配慮型特性に関する情報を収集し、その普及促進に努めます。

制定日 2013年8月1日

改定日 2020年4月17日

豊國車輛株式会社

代表取締役 社長

仲間 健次

5. 環境経営目標(次年度含む)

- ・ 目標の設定に当たっては、負荷実績で大きく変動があった2020年度を基準年とする。
(理由 : 2020年度/コロナ禍の安全対策で電気の利用方法に大きな変動があった。)

※ 基準年 : 2020年度:2020年8月1日～2021年7月31日

- ・ 基準年より各項目1%ずつ改善していくことを目標とする。

項目		単位	< 実績 >	< 目標 >			
			2020年度 <基準年>	2021年度	2022年度	2023年度	
二酸化炭素排出量削減							
	内訳	総排出量	(kg-CO ₂)	77,314	76,541	75,768	74,995
		購入電力	kWh	78,242	77,460	76,677	75,895
		灯油	L	3,385	3,351	3,317	3,283
		液化石油ガス(LPG)	kg	100	99	98	97
		ガソリン	L	9,411	9,317	9,222	9,128
		軽油	L	4,780	4,733	4,685	4,637
水使用量の削減							
	水使用量	m ³	613	607	601	595	
廃棄物の排出量の削減							
	一般廃棄物	(総排出量)	kg	2,400	2,376	2,352	2,328
	産業廃棄物	(総排出量)	kg	71,006	70,296	69,586	68,876
化学物質使用量の把握と適正管理							
	物質名	トルエン	kg	207.9	205.8	203.7	201.6
		キシレン	kg	39.5	39.1	38.7	38.3
		エチルベンゼン	kg	25.8	25.5	25.3	25.0
グリーン購入			%	51.4%	51.9%	52.4%	52.9%
環境配慮型製品・サービスの普及促進			件	81	82	83	84

※二酸化炭素の排出係数は2021年度のウエスト電力と中部電力の数値を使用する。(部署毎の契約が異なるため)

中部電力パワーグリッド:0.433kg-CO₂/kWh(基礎排出係数)

中部電力ミライズ:0.406kg-CO₂/kWh(基礎排出係数)

※化学物質使用量は、環境活動期間の1年間で使用した化学物質の量を調査。

※グリーン購入:事務用品(アスクルで手配)の総購入金額とそのうちのアスクルでグリーン商品に相当するとしている商品の総購入金額を比率で把握。

※環境配慮型製品・サービスの普及促進は、メーカーの再生品の利用件数を調査。

6. 運用期間の環境経営目標の実績

・運用期間 2022年8月～2023年7月の実績は以下の通りです。

項目		単位	2020年度	2022年度		目標値 との 比較	評価	
			2020年8月 ～2021年7月 ＜基準年＞	2022年8月 ～2023年7月 ＜目標＞	＜実績＞			
二酸化炭素排出量削減								
内訳	総排出量	(kg-CO ₂)	77,314	75,768	78,313	101.3%	×	
	購入電力	kWh	78,242	76,677	73,705	94.2%	○	
	灯油	L	3,385	3,317	3,543	104.7%	×	
	液化石油ガス(LPG)	kg	100	98	0	0.0%	○	
	ガソリン	L	9,411	9,222	10,449	111.0%	×	
	軽油	L	4,780	4,685	5,263	110.1%	×	
水使用量の削減								
	水使用量	m ³	613	601	612	101.9%	×	
廃棄物の排出量の削減								
	一般廃棄物	(総排出量)	kg	2,400	2,352	2,400	100.0%	－
	産業廃棄物	(総排出量)	kg	71,006	69,586	71,064	100.1%	×
化学物質使用量の把握と適正管理								
物質名	トルエン	kg	207.9	203.7	153.7	73.9%	○	
	キシレン	kg	39.5	38.7	53.8	136.3%	×	
	エチルベンゼン	kg	25.8	25.3	29.3	113.8%	×	
グリーン購入		%	51.4%	52.4%	29.1%	56.6%	×	
環境配慮型製品・サービスの普及促進		件	81	83	88	108.6%	○	

※二酸化炭素の排出係数は2022年度のウエスト電力と中部電力の数値を使用する。(部署毎の契約が異なるため)

中部電力パワーグリッド: 0.433kg-CO₂/kWh (基礎排出係数)

中部電力ミライズ: 0.406kg-CO₂/kWh (基礎排出係数)

※化学物質使用量は、環境活動期間の1年間で使用した化学物質の量を調査。

※グリーン購入: 事務用品(アスクルで手配)の総購入金額とそのうちのアスクルでグリーン商品に相当するとしている商品の総購入金額を比率で把握。

※環境配慮型製品・サービスの普及促進は、メーカーの再生品の利用件数を調査。

※2022年度は太陽光発電により37,060kWh売電した。(昨年度比: 100.7%)

→ 間接的ではあるが16,047kg-CO₂の環境負荷軽減につながり社会貢献に寄与することができた。

→ 天候によって発電量は変化するが大きな変動は無い。設備の故障もなく安定して発電できていることが確認できた。

< 2022年度 >

設備名: 太陽光発電 ※ 中部電力パワーグリッドへ売電 ⇒ 環境負荷軽減(使用ではなく売電なので「- (マイナス)」)として集計
排出係数: 0.433 kg-CO₂/kWh 平均単価: 23.1 円/kWh

項目	単位	2022年8月	2022年9月	2022年10月	2022年11月	2022年12月	2023年1月	2023年2月	2023年3月	2023年4月	2023年5月	2023年6月	2023年7月	合計	月平均
使用量	kWh	-3,678.00	-3,473.00	-2,597.00	-2,492.00	-1,729.00	-2,365.00	-2,454.00	-3,103.00	-3,776.00	-4,038.00	-3,089.00	-4,266.00	-37,060.00	-3,088.33
料金	円	-84,961	-80,226	-59,990	-57,565	-39,939	-54,631	-56,687	-71,679	-87,225	-93,277	-71,355	-96,766	-854,301	-71,192
CO2排出量	kg-CO ₂	-1,592.57	-1,503.81	-1,124.50	-1,079.04	-748.66	-1,024.05	-1,062.58	-1,343.60	-1,635.01	-1,748.45	-1,337.54	-1,847.18	-16,046.98	-1,337.25

< 2021年度 >

設備名: 太陽光発電 ※ 中部電力パワーグリッドへ売電 ⇒ 環境負荷軽減(使用ではなく売電なので「- (マイナス)」)として集計
排出係数: 0.433 kg-CO₂/kWh 平均単価: 23.1 円/kWh

項目	単位	2021年8月	2021年9月	2021年10月	2021年11月	2021年12月	2022年1月	2022年2月	2022年3月	2022年4月	2022年5月	2022年6月	2022年7月	合計	月平均
使用量	kWh	-3,183.00	-3,085.00	-2,708.00	-2,550.00	-1,922.00	-2,376.00	-2,492.00	-3,143.00	-3,834.00	-3,815.00	-3,587.00	-4,106.00	-36,801.00	-3,066.75
料金	円	-73,527	-71,263	-62,554	-58,905	-44,398	-54,885	-57,565	-72,603	-88,565	-88,126	-82,859	-94,848	-850,098	-70,842
CO2排出量	kg-CO ₂	-1,378.24	-1,335.81	-1,172.56	-1,104.15	-832.23	-1,028.81	-1,079.04	-1,360.92	-1,660.12	-1,651.90	-1,553.17	-1,777.90	-15,934.83	-1,327.90

7. 環境経営計画及び、計画に基づき実施した取組内容

環境負荷	目標	活動項目	2021年度スケジュール	詳細
			2022年 8月 ~ 2023年 7月	
二酸化炭素排出	2020年度を基準として2%削減する。	①事務所の空調管理(夏期、冬期)	管理状況チェック	※1
		②昼休み時消灯、エアコンOFF実施	管理状況チェック	※2
		③事務所照明の間引き、PC省エネモード設定	管理状況チェック	※3
		④エコドライブの実施	エコドライブ実施	※4
		⑤冬期 ストープの使用方法をルール化	管理状況チェック	※5
		⑥太陽光発電によるCO2排出削減への寄与	発電量の把握	※6
廃棄物排出	排出量の削減・再利用促進	①分別の徹底による再利用の促進	分別内容を記載	※7
		②裏紙利用、再利用の促進	裏紙使用促進	※8
水使用量	2020年度を基準として2%削減する。 油水分離槽の活用徹底	①節水に心がける(手洗い・食器洗い時)	管理状況チェック	※9
		②水漏れ対策(洗面所・洗車機ホース)	管理状況チェック	※10
		③排水処理の徹底(油水分離槽への排水処理)	管理状況チェック	※11
化学物質使用	2020年度を基準として2%削減する。	①使用量を把握する。	管理状況チェック	※12
		②在庫管理と使い切りを実施する。		
グリーン調達	2020年度を基準として毎年2%増加する。	アスクルで購入する事務用品についてグリーン商品購入促進する。	管理状況チェック	※13
環境配慮型製品・サービスの普及促進	2020年度を基準として毎年2%増加する。	①メーカー再生品利用促進を行う。 ②環境配慮型製品・サービスの普及促進	管理状況チェック	※14

■□■□各担当者と具体的な活動項目・活動効果確認方法について ■□■□

< 詳細 >

※1:事務所の空調管理について / ※2:昼休み時消灯、エアコンOFF実施

場所	担当者	夏期	冬期	具体的な活動項目	活動効果確認方法
本事務所(本社)	池田	21℃	26℃	※左記に定めた温度設定を守る。(設定温度のシールを貼る)	電気料金請求書に記載されている電力消費量を把握。増減により効果の判定を行う。 (目標:2020年度を基準として毎年2%減少する。)
2F食堂(本社)	池田	21℃	26℃	※昼休憩時、食堂以外は必ず消灯する。	
部品事務所(本社工場)	小出	20℃	30℃	※同上時、エアコンをOFFにする。	
北工場事務所(本社工場)	仲間光	23℃	28℃	※暑い時にはカーテン・ブラインドを活用。	
東工場事務所(本社工場)	高阪	28℃	26℃	(冷暖房効率を上げる工夫)	
タダノ中部部品センター	渡邊	26℃	22℃	※換気・通気による温度調整をする。	
☆ コロナ禍による新ルール ☆				※コロナ感染リスクを抑えるために換気は必須 → 人命・健康第一でコロナ対策前提の設定温度にする	
トイレ	全員	都度消灯		※明るい時間帯で良く見えれば換気扇のみ。 ※使用後、換気扇・電気を必ず消灯する。	

※3:事務所の照明の間引き、PC省エネモード設定

場所	担当者	実施状況	具体的な活動項目	活動効果確認方法
本事務所(本社)	篠辺	完了	※事務所照明 間引き ※各部署のPCを省エネモードに設定 ※PC入れ替え時に再度設定 ※照明機器入れ替え時には省エネ商品推奨	同上
2F食堂(本社)		完了		
部品事務所(本社工場)	小出	完了		
北工場事務所(本社工場)	仲間光	完了		
東工場事務所(本社工場)	高阪	完了		
タダノ中部部品センター	渡邊	完了		

※4:エコドライブの実施

エコドライブに関する勉強会を実施。(エコドライブの方法・効果を知る)

勉強会実施日	担当者	対象
研修会時	篠辺 大十	社員全員

⇒ 研修会は奇数月の第2 or 第4土曜日に実施

7. 環境経営計画及び、計画に基づき実施した取組内容

※4:エコドライブの意識向上(セルフチェック実施)

研修会時にエコドライブの実施状況をセルフチェックする。(文書「エコドライブ10セルフチェックシート」参照
各項目に対して定性評価(○、△、×)を行い、定期的に全社員の意識向上を図る。

※5:冬期 ストープの使用方法をルール化

<ルール>

休憩時は現場の皆が集まって暖をとる。コロナ対策のためマスク着用を必須とする。

周囲に人が居ない時には種火を消すか最小に設定しておく。

インナーを重ね着して上着も活用して風邪を引かないように注意する。

※6:太陽光発電によるCO2排出削減への寄与

発電した電気をそのまま自社で使うことが難しいため売電により社会全体のCO2排出削減への寄与を目指す。
発電量を把握し負荷のチェック表へ反映させる。

※7:分別の徹底による再利用の促進

☆ ゴミの分別

場所	担当	実施状況	具体的な活動内容	活動効果確認方法
北工場(本社工場) ゴミ箱	吉田(し)	完了	廃棄物を入れるゴミ箱に分類を明記	マニフェストにて排出量を把握
南工場(本社工場) ゴミ箱	鈴木	完了		
東工場(本社工場) ゴミ箱	吉田(け)	完了		
工場北側(本社工場) コンテナ	山本	完了		
本社南側(本事務所)コンテナ	篠辺	完了		
本社部品課(本社工場) ゴミ箱	小出	完了		
東工場(本社工場) 事務所	高阪	完了		
本社 事務所	池田	完了		
本社 食堂	池田	完了		
タダノ中部部品センター	渡邊	完了		

※8:裏紙利用、再利用の促進

<ルール>

その(1)社内文書のコピーは裏紙を使用して行う。

その(2)メモ用紙は裏紙を4等分してクリップで挟み再利用する。

※9:節水について／※10:水漏れ対策について

<ルール>

その(1)手洗い時、手を濯ぐとき以外は水を止める。(流しっぱなしで手を洗わない)

その(2)配管水漏れ・洗車ホース水漏れ時には即修理対応を行い放置しない。

※11:排水処理の徹底(油水分離槽への排水処理)について

北工場の東側、コンテナの横に4槽の油水分離槽がある。洗車をする際にはここにその水が流れていくように洗車をする場所と水の流れに気をつける。

※12:化学物質使用量の把握について 担当:篠辺

塗料、シンナー、ブレーキオイルなどの量を把握する。その中に、PRTR制度対象物質が含まれているかどうかをSDSシートを取り寄せて調査する。年間どれだけの使用量なのかを把握し使い切る事により廃棄を少なくする。

※13:グリーン調達／購入について

アスクルで購入する商品の、グリーン商品を意識して購入することを目標として活動する。

※14:環境配慮型製品・サービスの普及促進について

メーカー再生部門の再生品の利用件数を増やすことによりゴミの削減・環境負荷軽減を目指す。
再生品を利用すると廃棄物削減につながり環境負荷を軽減することができる。

- ・ 次年度の環境経営計画は本年度の内容を継続する。
(コロナ禍などの社会情勢により計画を変更する可能性あり。)

8. 環境経営の取り組み結果とその評価、次年度の取組内容

① 温室効果ガス(二酸化炭素)排出量削減について

CO2総排出量は78,313kgで1.3%増加した。

購入電力は73,705kWhで5.8%減少した。

2022年9月に東工場の電灯を水銀からLEDへ交換した事が大きい。

また、通年通りコロナ禍による換気をしながらのエアコン使用を今年も続けているが、コロナ禍がピークを過ぎた事により、換気の頻度が減った為である。

灯油は3,543Lで4.7%増加した。

ガソリンは10,449Lで11%増加した。

軽油は5,263Lで10.1%増加した。

上記3項目は、重整備が増加し、それに伴う形で
代車使用頻度が上がった(ガソリン・軽油)。
現場作業の増加による、ストーブの使用頻度(灯油)が増えた。
その結果、過去最高売上(1047百万円)に到達した。

次年度は岡崎に工場を設立した事もあり、更なる増加が予想される。
それに伴い、基準年やルールの見直しが必要になってくると思われる。

液化石油ガス(LPG)に関しては今期の購入は無く、値上がり前にまとめて購入した為である。

② 水使用量の削減について

水使用量は612Lで0.2%減少した。

昨年と比べても大きな増減はなく、昨年同様繁忙により工場清掃に注力できなかった。

二期連続の繁忙を迎えており、工場の清掃頻度が落ちている。次年度は清掃月を
設けるなどし、節水しつつ工場の清掃及び、排水を綺麗にしていく。

③ 廃棄物の排出量の削減について

一般廃棄物の総排出量は2,400kgで今年も変化なし。

三期連続での2,400kgの排出となり、昨年度の計画通り
排出量の目標を「2,400kg以下」にする。

産業廃棄物は71,064kgで0.1%増加した。

繁忙を迎えた昨年度の増加率が25.8%だったが、それ以上の繁忙を極めた今年度増加が
0.1%に留まったのは、評価に値する。

来年度は、岡崎工場開設のため増加することが予想されるが、
本社工場同様、廃油、鉄くず等有価買取のものをしっかりと分別し、環境付加軽減に貢献していく。

④ 化学物質使用量の把握と適正管理について

トルエンは、153.7kgで26.1%減少。

キシレンは、53.8kgで36.3%増加。

エチルベンゼンは、29.3kgで13.8%増加。

トルエンが減りキシレン、エチルベンゼンが増えた理由はシンナーにトルエンが含まれないためである。
つまり、在庫の塗料を使いシンナーのみ購入しており、
古い塗料を捨てずに利用し、新規に塗料を購入していないことがわかる。
増加した理由は、重整備の際、再塗装しなければならない事も多く、
繁忙を極めた今年度では増加となった。

来年度も在庫品を把握し、それを優先的に使っていく。

⑤ グリーン購入促進について

今期は29.1%で43.4%減少した。

新入社員にグリーン商品購入の推進ができていなかった。

来期からはしっかりとグリーン商品の物を選び、購入することを心掛ける。

⑥ 環境配慮型製品・サービスの普及促進

再生品使用利用件数が88件で8.6%増加した。

物価の高騰により、メーカー新品部品の値段が15%程上がっている為、利用件数が増加した。今後も増えていくと思われる。

前年度同様、再生品利用提案を心掛ける。

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟などの有無

法令等の名称	要求事項	評価
廃棄物処理法 名古屋市産業廃棄物等の適正な処理 及び資源化の促進に関する条例	保管の基準の遵守	○
	委託契約書の締結	○
	許可内容の確認	○
	産業廃棄物管理票(マニフェスト)の発行・適正管理(5年)	○
	前年度の産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出(6月末まで)	○
	定期的に産業廃棄物処理状況の確認(1回/年)	○
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	＜テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機＞ リサイクル料金の負担と指定業者への引渡し	—
使用済自動車の再資源化等に関する 法律(自動車リサイクル法)	リサイクル料金の負担と取引業者への引渡し	—
資源の有効な利用の促進に関する 法律	＜パソコン、コピー機＞メーカー指定方法破棄	—
騒音規制法、振動規制法、市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例	適正使用(空気圧縮機、送風機) 特定施設の該当可否確認	○
名古屋市下水道条例	定期的清掃	○
水質汚濁防止法	排水適正管理、事故時報告	○
消防法 消防名古屋市火災予防条例	取扱基準の遵守	○
フロン排出抑制法(業務用エアコン)	廃棄時 許可業者への引き渡し 書面管理	○
	3ヶ月に1回以上の簡易点検、記録保存	○
	漏洩時の処置	—

環境関連法規への違反・訴訟はありません。なお、関係当局よりの違反などの指摘は過去3年間ありません。

評価基準:「○」…実施あり 「—」…実施無し(対象無しを含む)

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

＜総括コメント＞

政府は2050年までに、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするという目標を掲げている。

そのため太陽光発電など再生可能エネルギーの普及を進めているが、日本には適地が少なく、急拡大は難しい。当面は、火力発電を続けざるを得ない。

また、鋼鉄メーカーなど現状ではCO₂の排出量をゼロにするのが困難な業種もある。そこで注目されるのが『CCS』と呼ばれる技術である。

特殊な膜などを使って、発電所や工場などの排ガスからCO₂を分離・回収した後、船やパイプラインで沿岸の貯留地点まで運び、海中などに漏れないように深さ1km以上の固い地層も下に閉じ込めるものだ。

エネルギーの安定供給や産業活動を維持しながら、脱炭素を図るために不可欠だと言える。政府は30年までの実用化を目指している。50年の排出ゼロの達成には、年1.2億～2.4億トンの貯留が必要だとの試算もある。

現状は、回収から貯留までにCO₂ 1トン当たり最低1万円以上かかる試算だ。官民でCO₂を効率的に回収し、安価に輸送できる技術の開発を進めてもらいたい。

弊社におきましては、2020年8月“SDGs宣言”をしました。
未来に向けて、生産性を上げるべく『健康宣言チャレンジ事業所』として職場の健康づくりに積極的に取り組んだ結果、全国健康保険協会愛知支部より表彰を受けました。

この評価に恥じることはないよう『持続可能な開発目標』を加速させて参ります。

世界で、そして日本で起こっている異常気象の課題に対して、それほど日本の中・小規模、企業経営者にとって関係のない話と思われるかもしれません。

しかし、異常気象を今以上に加速させないように、ビジネス界のルールそのものが静かに変革を始めています。

タダノの商品を取り扱う会社として、サービスビジネスを展開している我々であるとするならば、異常気象の課題はもはや他人事ではなくなってきているのです。

移動式クレーン及び車体の点検整備を生業として、環境保全を重要な課題と捉えており、エコアクション21の認証資格に恥じないよう脱炭素社会に取り組んでいきたいと考えております。

弊社の環境活動経営をさらに進化させるべく、今後も脱炭素社会に向けた投資を切れ目なく継続させ、CO₂削減と地球温暖化防止に貢献して参ります。